

# 現行総合計画の評価と課題分析

## ■ 現総合計画（総合戦略）に対する評価

- 現計画（10年間）将来像：「前より前へ！長岡 志を未来に活かし輝き続けるまち」・・・基本構想なので具体施策や数値目標は無し
- 総合戦略（5年間）理念：“志を未来に活かす、ながおか”・・・6つの戦略に定性目標と**数値目標（赤字は実績）**を設定

- ① 若者定着 : ○若年層の転出超過率（114.5%⇒105%） **116.1%**  
: ○市内就職率（20.7%⇒25%） **15.9%**
- ② 子育て : ○子育て満足度（78.5%⇒72%） **67%**
- ③ 教育 : ○小学生の割合（62.1%⇒85%） **79%** ※地域や社会をよくするために  
: ○中学生の割合（47.9%⇒75%） **63%** 何をすべきかを考える児童生徒の割合
- ④ 働く : ○起業件数/年間（30件⇒41件） **23件**  
: ○地域未来承認企業数（17件⇒40件） **33件**  
: ○担い手農家農地利用割合（64.5%⇒70%） **67.8%**
- ⑤ 交流・連携 : ○主要集客地点入込数（7,360千人⇒8,360千人） **7,110千人**  
: ○JR長岡駅乗車数（2,120千人⇒2,200千人） **1,765千人**  
: ○市内5IC利用台数（12,400千台⇒13,120千人） **11,580千人**
- ⑥ 安全安心 : ○フェニックスネット参加機関数（181機関⇒270機関） **268機関**  
: ○ “ ” 登録者数（4,705人⇒13,000人） **11,027人**

③教育、⑥安全安心は、当初目標を達成したため、目標値を上方修正したもの

## ■ 社会増減の状況

- 転出超過数566人（2023年）、若年層が556人の転出超過
- 女性の転出超過率の方が高い（女性：298人、男性：268人）
- 転出理由は「職業」が最も多く、4割強

人口減少  
年間3,000人

## ■ 自然増減の状況

- 合計特殊出生率は1.35で推移、県や全国と比べるとやや高いものの、段階的上昇には至らず・・・婚姻数の減、未婚化・晩婚化
- 出生数の低減（2020年1,631人→2023年1,436人）
- 死亡数の増加（2020年3,475人→2022年3,952人）
- 自然減は拡大傾向、年間2,516人減（2023年）

### 【根本的な要因分析】

- 若者・女性が求める職種や働き方の不足
- 首都圏との賃金格差（月約10万円）
- 根強いジェンダーギャップ
- ダイバーシティ&インクルージョンへの対応の遅れ
- 遊興施設やイベント、チャレンジ機会の格差
- 結婚・出産に対する価値観の変化

### 【次期 総合計画(総合戦略)策定に向けた総括】

▶「人口減少対策」と「市民のウェルビーイング実現」を目指す

①人口減少の要因分析に対応した施策を重点的に実施

②同時に、「社会課題」に対応した施策の実施

- 格差のない「子育て」「教育」支援
- 充実した地域医療
- 安全な暮らし・防災
- 地域資源の活用・ビジネス化
- 観光・地域活性化
- 不自由のない交通
- 環境保全・脱炭素
- 域内外への情報配信

※実効力を高めるための成果指標を数多く設定、毎年市民アンケートで達成度を図る